

国立

国会

図書館

月報

NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2020.11



憲政資料室の新規公開資料から

ミニ電子展示「本の万華鏡」第28回 国会議事堂ができるまで

国立国会図書館で働いています

表紙画家セレクション

国立 国会 図書館 月報

NO. 715
NOVEMBER
2020
CONTENTS

- 1 感染症克服への願い
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から (特別編)
- 4 憲政資料室の新規公開資料から
- 12 ミニ電子展示「本の万華鏡」第28回
国会議事堂ができるまで
- 18 議会開設百二十年記念 議会政治展示会
- 22 国立国会図書館で働いています no. 9
- 26 表紙画家セレクション

- 20 館内スコープ
すてきな資料に、もっと「光」を
- 21 本屋にない本
『アート芸術の保存・修復』
- 30 NDL Topics



表紙：
『鳥類写生図譜 [第1期] 第7輯』から「うそ (鶯)」
小泉勝爾・土岡泉 著 鳥類写生図譜刊行会
昭和3 <請求記号 425-17>

感染症克服への願い



新形三十六怪撰 為朝の武威痘鬼神を退く圖

月岡芳年 [画] 松木平吉 明治35(1902)『新形三十六怪撰』所収
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1306529>

現在、世界各地で新型コロナウイルス感染症が猛威をふるっています。これまで、人々がどのような思いで様々な感染症に向き合ってきたのか、今回の「今月の一冊」は少し趣向を変えてご紹介します。

平安時代末期の武将である源為朝（1139～1170）は、五人張りとも言われる強弓を軽々と使いこなし、鎮西八郎と称して武勇を轟かせていました。保元の乱（1156）では崇徳上皇側について奮戦しましたが敗北し、伊豆大島に配流されてしまいました。

この絵は、八丈島で為朝が疱瘡神（天然痘を起す神）を退治している様子です。また、馬琴の『椿説弓張月』では、疱瘡神を退けるエピソードが掲載されています。

天然痘はウイルスによって引き起こされる感染症です。強い伝播力と高い死亡率、また、命を取り留めても顔や体に跡が残ることから、古くから恐れられてきました。日本では奈良時代に流行した天然痘により、当時の日本の人口の約3割が死亡したとの説もあり、東大寺盧舎那仏像（奈良の大仏）が造立されるさっかけのひとつにもなりました。

コレラも世界で流行を繰り返している経口感染症の一種です。現在でも年間130万人から400万人のコレラ患者が発生していると推計されています。かつて日本では「虎列



『青物魚軍勢大合戦之圖』歌川広景画 辻岡屋 安政6 (1859) (『東錦絵』所収)
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1312046>

刺」などの当て字の他、激しい下痢や嘔吐といった症状から「鉄砲」や「見急^{けんきゅう}」、また死に至るまでの早さから「虎狼痢^{ころうり}」などとも呼ばれました。

上の絵は安政6(1859)年10月、歌川広景によるものです。「蜜柑太夫」や「藤唐土之助」ら青物(野菜類)と「蛸入道八足」に「鯉平太」などの魚類とが合戦を行い、コレラに罹りにくい野菜類が勝利するという構図になっています。人間以外のものを擬人化させて戦わせるという構図は「異類合戦物」といい、錦絵の人気ジャンルのひとつでした。

この絵が描かれた前年はコレラが大流行し、江戸では生もの、特に魚が全く売れず、野菜類は逆に高騰したとのことです。



『流行性感冒』内務省衛生局 編 内務省衛生局 大正11
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/985202/94>

現代において身近ともいえる感染症にインフルエンザがあります。大正7(1918)年から世界的に流行したものは「スペイン風邪」の名で有名ですが、全世界で約6億人が感染し、死者数は約4000万人から5000万人と推定されています。左のマスクやうがいのは絵は内務省衛生局編『流行性感冒』に掲載されたもので、猛威をふるったスペイン風邪への対応の経験を元にまとめられたものです。インフルエンザの病因としてインフルエンザウイルスが未だ知られていない時期ですが、マスクやうがいの重要性、予防注射の勧め、咳エチケットなど、その対処法はおおよそ100年後の現在と大きくは変わらないものが挙げられています。



『肥後国海中の怪(アマビエの図)』(京都大学附属図書館所蔵)
<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00000122>



本稿は、ミニ電子展示会「本の万華鏡」の第11回「はやり病あれこれ」を元に構成しました。
<https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/11/>

最後の絵は、弘化3(1846)年、江戸時代の瓦版で『肥後国海中の怪(アマビエの図)』(京都大学附属図書館所蔵)です。右の文章を要約すると、「肥後の国(熊本県)の海中に毎夜光る物が出没するので役人が調べに行った。すると図の者が現れ『私は、海中に住むアマビエという者である。今後6年間は諸国豊作であるが、病も流行するので私の姿を写して人々に見せなさい。』と言い海中に消えていった。これは役人から江戸へ報告した際の写しである。弘化三年四月中旬」とあります。このアマビエは、昨今のコロナ禍の中で「Twitter」などのSNSを中心に脚光を浴びています。

「アマビエ」については、他に目撃されたという記録が存在しないことから、「アマビコ」「天彦」「あま彦」「天日子」等という猿に似た三本足の怪物のことが間違って伝わったのではないかという説がありますが、真偽のほどは定かではありません。感染症の克服に対する、人々の祈るような思いは現在も昔も変わらないといえるのではないのでしょうか。

憲政資料室の新規公開資料から

国立国会図書館は、幕末・維新期から現代までの政治家、官僚、軍人らが所有していた個人文書（憲政資料約四二万点）を所蔵しています。このたび東京本館憲政資料室で新規に公開した資料をご紹介します。

憲政資料は主にご子孫などからの寄贈によって収集した資料から構成されており、整理や目録作成を行った上で一般に公開します。この記事により、政治史をはじめ様々な分野の調査・研究を支える貴重なコレクションの魅力の一端を味わっていただければ幸いです。

憲政資料室のご案内（東京本館 本館4階）

幕末・維新期から現代にいたる政治家・官僚・軍人などが所蔵していた文書類を集めた「憲政資料」、第二次世界大戦終了後の連合国による日本占領に関する米国の公文書を中心に集めた「日本占領関係資料」、主に北米・南米への日本人移民に関する資料を集めた「日系移民関係資料」を扱っています。

憲政資料室の利用方法、今回紹介する資料を含む所蔵資料の概要については、リサーチ・ナビ「憲政資料室の所蔵資料」(<https://mavi.ndl.go.jp/kensei/>)をご覧ください。



憲政資料室

中村覚書簡 乃木希典宛（複製）（憲政資料室収集文書351）

（一点 令和元年二月公開）

日露戦争に従軍した陸軍少将中村覚から軍司令官の乃木希典に宛てた書簡の複製です。

中村覚は、日露戦争での旅順攻略戦において、松樹山補備砲台への夜襲を乃木軍司令官に具申します。明治三七（一九〇四）年一月、後に「白樺隊」と呼ばれる特別支隊を率いて作戦に当たりましたが、ロシア軍の猛反撃により自身も負傷、部隊も甚大な被害を受けて作戦は失敗に終わります。その直後に記されたこの書簡では、「国家ニ対シ軍司令官ニ対シ面目之レ無ク奉恐人候」と詫びつつ、「目下ノ形勢ニ於テ我陸軍ハ要塞中斷ヲ決行スルヲ尤モ陥落ヲ早ムルノ道ナルベシト考フ」（写真1矢印）と

要塞攻略の持論を展開しています。

また、これを収める丸筒には、中村覚の息子中村謙一が、書簡複製の由来について説明した書簡が同封さ

れていました。それによると、中村覚書簡の原本は昭和五（一九三〇）年、靖国神社の遊就館に陳列中であった故乃木將軍の軍服の内ポケットから発見され、新聞報道でも取り上げられました。中村謙一は続けて、翌昭和六（一九三一）年が中村覚の七回忌に当たり、近親者で法要を営んだ際に記念として複製を作ったと記しています。

同年一月九日付の東京朝日新聞では、「中村隊長の『哀別の辞』を発見 旅順の奮戦を思ひ起させる白だすき隊の活躍」という見出しのもと、書簡発見の経緯や日露戦争当時の状況を解説しています。「素より一死あるのみ。生還を期せず。」との訓示のもと、文字通りの決死戦を行った白樺隊は、日露戦後も美談として扱われ、当時の人々の注目を集めていたことが窺えます。

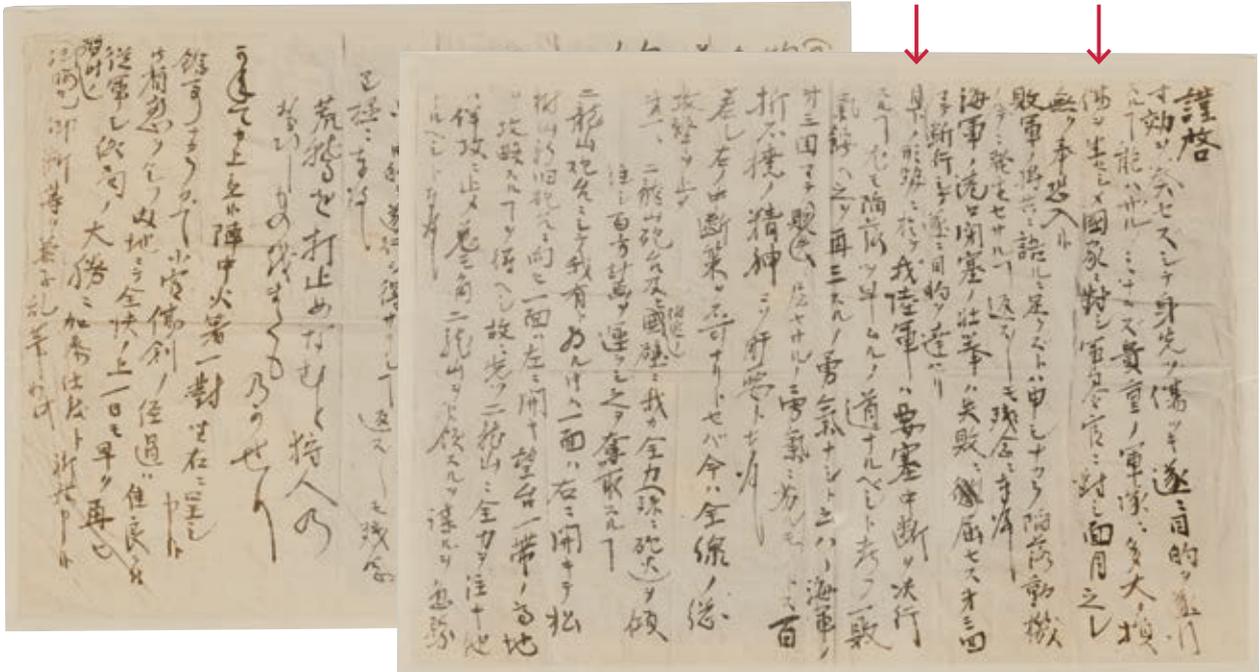
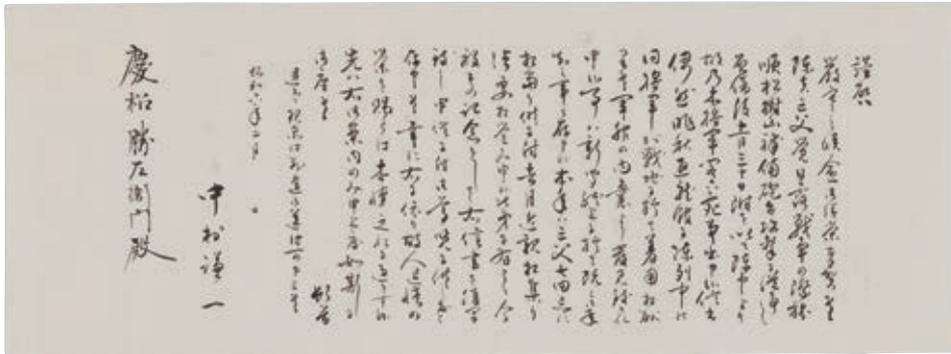


写真1 中村覚書簡 乃木希典宛（複製） 明治37（1904）年11月30日
 <憲政資料室収集文書351>

（右上から反時計回りに）書筒の入った丸筒、中村謙一が書筒複製の由来について説明した書簡、中村覚から乃木希典に宛てた書筒の複製2枚。
 ※赤い矢印は本文引用部分。

中村覚（1854-1925）

嘉永7（1854）年滋賀生まれ。明治8（1875）年に陸軍少尉に任ぜられ、その後は戸山学校長、侍従武官長等を歴任する。日露戦争に歩兵第二旅団長として出征し、旅順攻撃に参加した。のちに陸軍大将。大正14（1925）年死去。

肖像写真の出典：『華族畫報 下』（杉謙二編、吉川弘文館、2011年）



1 夜間の同士討ちを避けるために白い襷を掛けたことに由来する。

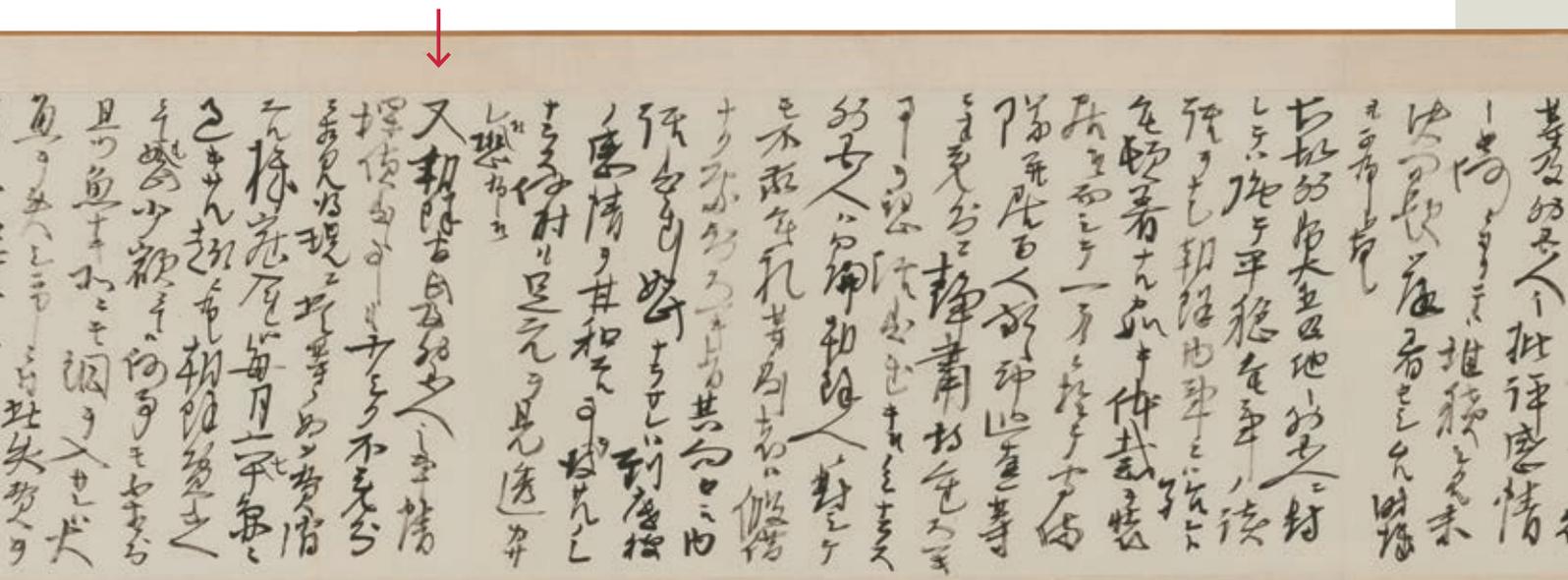


写真2 原敬書簡 西園寺公望宛 [明治29(1896年)7月11日
<憲政資料室収集文書353>

原敬書簡西園寺公望宛 (憲政資料室収集文書353)

(二点 令和二年一月公開)

日清戦争後、朝鮮半島ではロシアと日本がそれぞれ勢力を伸張しようとして競っていました。朝鮮政府内で親日派と親露派が対立し、明治二八(一九九五)年一〇月には日本軍守備隊らによる閔妃殺害事件が発生、翌年二月に朝鮮国王がロシア公使館に居を移す等、朝鮮の政情は騒がしい状態でした。同年、外務次官であった原敬が在朝鮮国公使へ任せられ、七月七日に首都の京城に入りました。

原は着任早々、同国の外務大臣や各国公使に会う中で、同月一日に伊藤首相と西園寺外相に手紙を送っています(『原敬日記』明治二九年七月一日の条)。これが西園寺宛の手紙で、なんと、一九〇行を超える長さです。原は、見聞したことの詳細や意見を縷々述べています。すでに知られている伊藤首相への手紙(『伊藤博文関係文書』第六巻収録)の中で「委細当地の事情は西園寺大臣まで内申」したと記した内申の内容を知ることができます。

そこでは、朝鮮側では原公使着任

について流言もあり、その意向を探偵したがっており、薄気味悪く思っていること、朝鮮の内閣は混乱していること、一方在留日本人は比較的平穏であるといった状況を踏まえて、あえて、朝鮮の内政に干渉せずに傍観するのが「得策」であると提案しています。中でも、情報を得ることの重要性を指摘して「朝鮮官民及外国人之事情探偵致候事も少シク不充分ニ相見え、現ニ是等ノ為メ費消スル機密金ハ毎月六七十円ニ過キサル趣ニ有之」(写真2矢印(右))と、その費用が少なすぎるので、「当館ノ機密金も残余有之候事ニ付充分ニ探偵致候様取計置候ニ付是迄よりハ多少費用相崇ミ可申」(写真2矢印(左))と伝えています。ほかにも、京城と釜山を結ぶ電線を「暴徒」から保護するために金殺で懐柔したかどうかとも提案しています。最後に朝鮮公使館の人員を強化して外国人との交際も盛んにしたいと書き送っています。新任の公使として広く情報を収集し、状況を見極めようとする原の姿勢が伝わる手紙です。

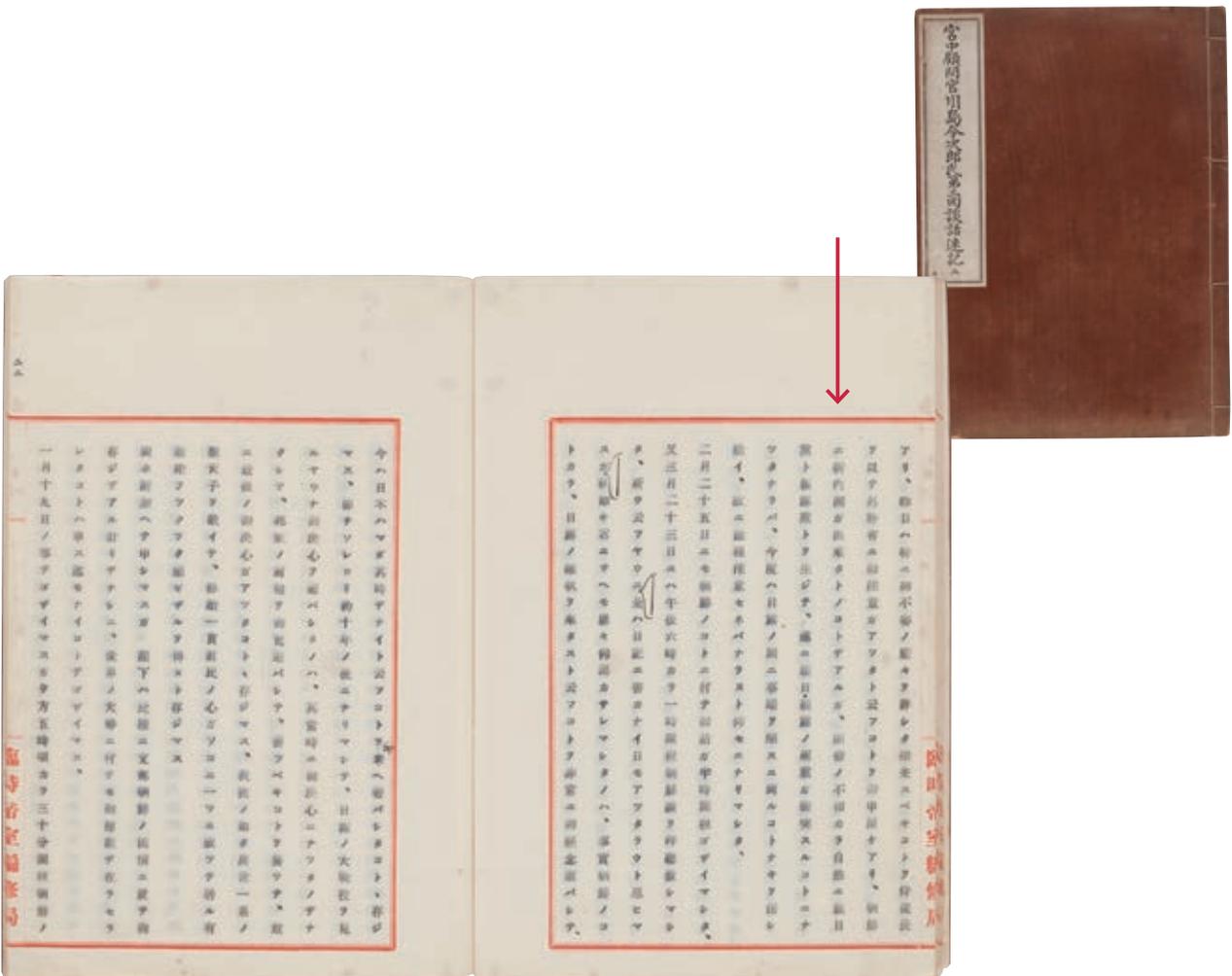


写真3 宮中顧問官川島令次郎氏第二回談話速記
 <橋井眞関係文書83>

橋井眞関係文書

(九七点 令和二年七月公開)

大正初期から昭和初期にかけて、宮内省に臨時編修局（後に臨時帝室編修局と改称）が設けられ、明治天皇紀の編修が行われました。上掲の資料は、当時宮中顧問官を務めていた海軍軍人川島令次郎が編修局員に語った談話の速記録です。川島の三男である橋井眞（商工官僚、一九〇二・一九七七）の旧蔵資料の一部として、このたび寄贈を受けました。

川島は明治二七（一八九四）年から約二年間侍従武官として明治天皇の傍に仕えました。この期間は日清戦争の時期と重なります。川島は広島大本営での天皇の様子や、その後の国際情勢に対する天皇の反応を間近に見聞きし、この談話で振り返っています。日清戦争終結から一年近くを経た明治二九（一八九六）年二月二三日には、天皇が戦争の一因となった朝鮮の政情に言及し、「閣僚ノ不和カラ自然ニ親日党ト親露党トヲ生ジテ、遂ニ親日・親露ノ両党ガ衝突スルコトニナツタナラバ、今度

ハ日露ノ間ニ事端ヲ醸スニ到ルコトナキヲ保シ難イ」（写真3矢印）と、日露関係への懸念を吐露しています。日露戦争が勃発するのはこの八年後のことです。談話後には、談話の内容に関連して踏み込んだ質疑が行われており、明治天皇紀の編修の真相も窺うことができます。

この他、同文書に含まれる資料としては、橋井が経済安定本部の要職を担った時期に作成された、太平洋戦争終結後の物資需給に関する調査資料などがあります。

川島令次郎 (1864-1947)

元治元(1864)年石川生まれ。海軍兵学校卒。日清戦争前後に侍従武官を務めた。英国駐在を経て、各艦の艦長を歴任した後、軍令部参謀、海軍大学校長、水路部長、旅順要港部司令官を歴任。中将。昭和22(1947)年死去。

末次一郎は市井の人として活動したため、あまり政治の表舞台には出てきませんが、戦前からの系譜をひく青年団活動や、青年海外協力隊の創設に関わり、さらに幅広い国際的人脈を生かし、首相ブレーンとして沖縄・北方領土問題で後方支援にあたった国土的人物です。本史料群は、手帳・メモ類をはじめ、彼の活動全般を伝える資料が含まれます。

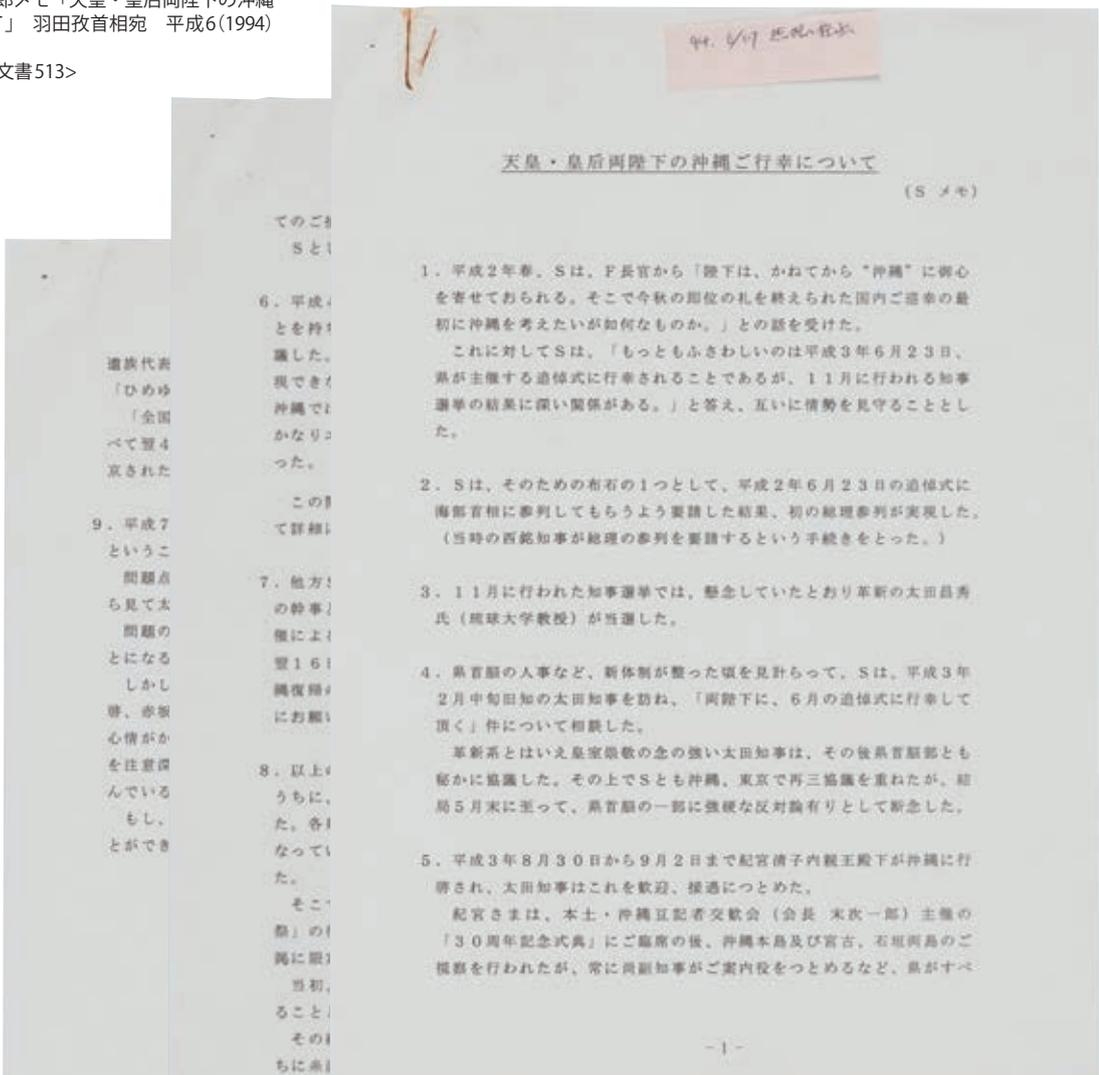
写真4は、誰が書いたのかは不明ですが、上部の付箋に「94. 6 / 17 総理へ提出」とあるので、同日に末次がときの首相羽田孜に提出した物と思われる。文中に「S」として登場するのが末

末次一郎 (1922-2001)

大正11(1922)年佐賀生まれ、青年教育活動家、国家安全保障問題研究家。陸軍中野学校二俣分校卒業後、軍人として終戦を迎える。戦後は引揚者支援団体日本健青会、新樹会の創設に関わり、さらに青年団運動や青年教育にも強い影響力を与える。その過程で岸信介から始まり、中曽根康弘・小渕恵三・森喜朗ら政治家と親交を結び、沖縄・北方領土問題などでも活動する。平成13(2001)年死去。

次、「F」は藤森昭一宮内庁長官です。平成二(一九九〇)年に長官から打診をうけた末次は、天皇の沖縄行幸の下準備を開始しました。反対論もある中、結局、全国植樹祭が沖縄県で開催された平成五(一九九三)年四月に行幸は実現しました。このメモにはそれまでの経緯とともに、平成七(一九九五)年の再度の沖縄行幸の布石として、一週間後(平成六(一九九四)年六月二三日)に開催が予定される沖縄全戦没者追悼式に、首相が出席するよう依頼する文言も記されています。政治的事情もあって首相の出席はかないませんでした。翌年の行幸は実現しました。

写真4 末次一郎メモ「天皇・皇后両陛下の沖縄ご行幸について」羽田孜首相宛 平成6(1994)年6月17日
<末次一郎関係文書513>



天皇・皇后両陛下の沖縄ご行幸について

(Sメモ)

1. 平成2年春、Sは、F長官から「陛下は、かねてから“沖縄”に御心を寄せておられる。そこで今秋の即位の礼を終えられた国内ご巡幸の最初に沖縄を考えたいが如何なものか。」との話を受けた。これに対してSは、「もっともふさわしいのは平成3年6月23日、県が主催する追悼式に行幸されることであるが、11月に行われる知事選挙の結果に深い関係がある。」と答え、互いに情勢を見守ることとした。
2. Sは、そのための布石の1つとして、平成2年6月23日の追悼式に海部首相に参列してもらうよう要請した結果、初の総理参列が実現した。(当時の西銘知事が総理の参列を要請するという手続きをとった。)
3. 11月に行われた知事選挙では、懸念していたとおり革新の太田昌秀氏(琉球大学教授)が当選した。
4. 県首脳の人事など、新体制が整った頃を見計らって、Sは、平成3年2月中旬太田知事の太田知事を訪ね、「両陛下に、6月の追悼式に行幸して頂く」件について相談した。革新系とはいえ皇室崇敬の念の強い太田知事は、その後県首脳とも密かに協議した。その上でSとも沖縄、東京で再三協議を重ねたが、結局5月末に至って、県首脳の一部に強硬な反対論有りとして断念した。
5. 平成3年8月30日から9月2日まで紀宮清子内親王陛下が沖縄に行啓され、太田知事はこれを歓迎、接遇につとめた。紀宮さまは、本土・沖縄互記者交歓会(会長 末次一郎)主催の「30周年記念式典」にご臨席の後、沖縄本島及び宮古、石垣両島のご視察が行われたが、常に尚副知事がご案内役をつとめるなど、県がすべて

松方正義関係文書（寄託）

（四八六点 令和二年二月公開）

「松方正義関係文書」は昭和二六（一九五二）年度から寄託を受けている文書です。黒田清隆からの来簡二三四通、山県有朋からの来簡一八三通、伊藤博文からの来簡一四七通といった元勲クラスからの大量の来簡をはじめとする書簡類や伝記関係資料からなり、これらの一部を翻刻した『松方正義関係文書』全二〇巻（大東文化大学東洋研究所、一九七九～二〇〇一）とあわせて、広く近代史や経済史の研究に活用されてきました。

このたび新たに四八六点に及ぶ追加の寄託を受けました。新たに追加された寄託資料はご子孫の手元で長年保存されてきたもので、書簡、皇室関係資料の他、辞令や勲記が系統的に残されています。中でも写真5は、勲功により元勲に優遇される旨の勅語書であり、極めて珍しい史料といえます。また、昭和天皇が摂政を務めた期間に発出されているため、摂政の筆でまず天皇御名を記したうえで、その傍に摂政名が記されて

いるという形式も確認できます。

写真6の「松方伯財政論策集」（和綴本全一二冊）は、明治二六（一八九三）年一月に、当時の官僚によって編纂されたもので、明治初めから二五（一八九二）年の内閣総理大臣兼大蔵大臣退官までの時期の財政上の意見書、演説等を集めたものの写本です。正本は松方家から大蔵省文庫に寄贈されましたが、関東大震災により焼失しました。箱の裏書によれば大正八（一九一九）年に作成された写本であり、松方家の那須の別荘にいったん置かれた上で当室に寄託されるに至りました。

この他、新規追加資料には皇室からの御下賜品を示す侍従からの通知が多数含まれますが、その御下賜品の内容は、鶴、バナナ、ハム、粕漬鮎、味噌漬兎、蛭、白菜、慈姑、益寿糖（和菓子）など至って多彩です。

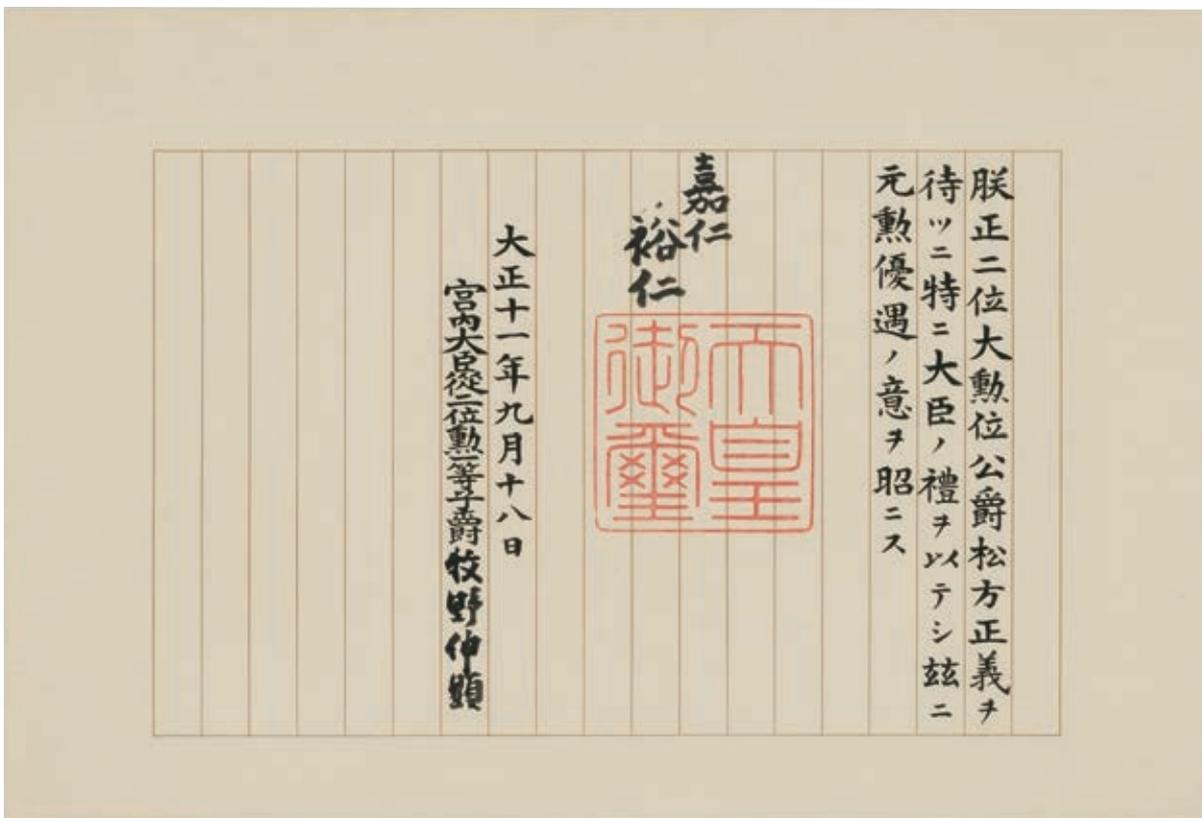


写真5 元勲優遇の勅語書 <松方正義関係文書（寄託）1227>



(上から) 資料が収められている箱を開ける様子。

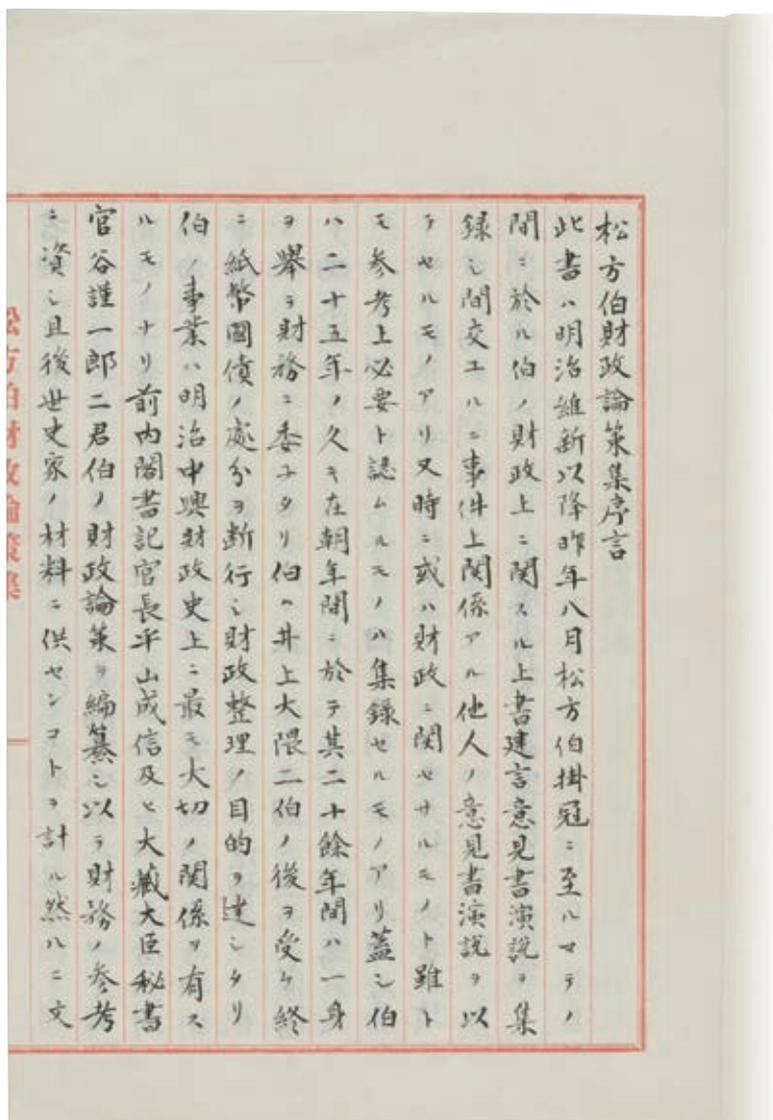


写真6 松方伯財政論策集 <松方正義関係文書(寄託) 1235>

松方正義 (1835-1924)

天保6(1835)年鹿児島生まれ。民部大丞、大蔵大輔、内務卿、大蔵卿を経て明治18(1885)年12月～明治24(1891)年5月第1次伊藤、黒田、第1次山県内閣の大蔵大臣を歴任。明治24(1891)年5月～明治25(1892)年8月内閣総理大臣兼大蔵大臣、明治28(1895)年3月～8月第2次伊藤内閣大蔵大臣。明治29(1896)年9月～明治31(1898)年1月、内閣総理大臣兼大蔵大臣、第2次山県内閣大蔵大臣。枢密顧問官、貴族院議員を経て大正6(1917)年5月～大正9(1920)年1月内大臣、大正11(1922)年9月公爵、大正13(1924)年7月2日死去。

肖像写真の出典：『近代日本人の肖像』(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/194.html>)



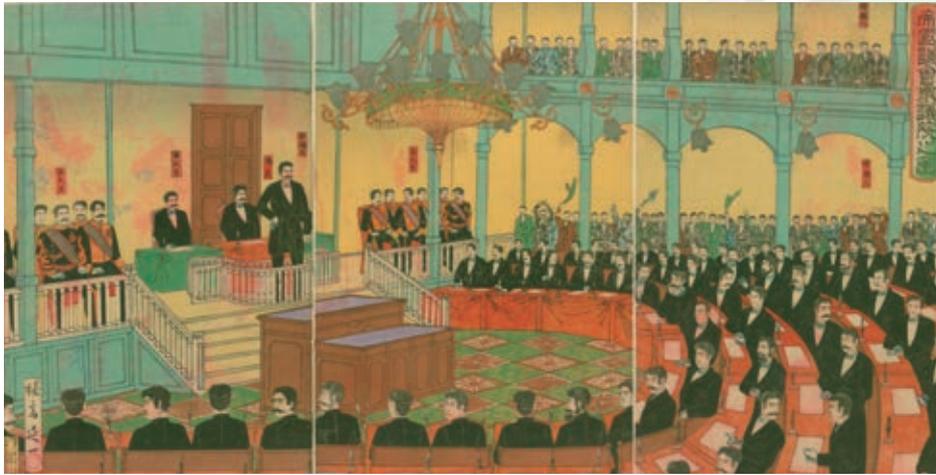
国会議事堂がでざるまで

インターネットで
ご覧いただけます

本年12月の「議会開設百三十年記念議会政治展示会」（18ページ参照）の開催に先立ち、ミニ電子展示「本の万華鏡」では、「国会議事堂がでざるまで」と題し、仮議事堂の移り変わりと本議事堂が落成するまでの経緯をご紹介します。月報の誌面でもダイジェストでお楽しみください。

ピラミッド型の屋根が特徴的な、東京・永田町にある国会議事堂。テレビで目しない日はありません。でも、この現在の議事堂（ここでは「本議事堂」と呼びます。）が実は5代目の建物であるということを、皆さんはご存じでしたか？

本議事堂が帝国議会議事堂として完成したのは昭和11（1936）年のことです。正式な議事堂としてはこれが最初の建物ですが、それまでに4つの仮の建物（ここでは「仮議事堂」と呼びます。）が造られました。4つの仮議事堂のうち3つは東京に、あと1つはなんと広島にありました！



楊齋延一〔画〕「帝國議會衆議院之圖」、網島亀吉、1890
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2542873>



楊齋延一筆「帝國議會議事堂之圖」、佐々木豊吉、1890
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2542872>

第1章 仮議事堂の変遷



帝國議事堂建築計劃圖
建築世界社編輯『建築圖案集 東京勸業展覽會出品』第2回, 建築世界社, 1912【408-61】

幻の議事堂

実際に建てられた仮議事堂を紹介する前に、まず仮議事堂誕生前に計画された「幻の議事堂」について触れておきたいと思います。「幻の議事堂」はお雇い外国人のドイツ人建築家ヘルマン・エンデ (Hermann Ende) とヴィルヘルム・ベックマン (Wilhelm Beckmann) が経営する建築事務所により設計されました。2人は外務大臣・井上馨によって主導された「官庁集中計画」の一環として、当時ヨーロッパで流行していたネオ・バロック様式の議事堂を提案しました。明治20(1887)年、第1回帝国議会開会の3年前のことです。建設予定地は東京府麴町区永田町1丁目(現:東京都千代田区永田町1丁目)、本議事堂が実際に建てられたその場所でした。しかし、官庁集中計画自体が予算不足や井上の失脚などによって実現せず、計画の中で実際に建設された庁舎は司法省と大審院(最上級裁判所)のみとなりました。こうして、エンデ・ベックマン事務所による議事堂は、幻に終わったのです。

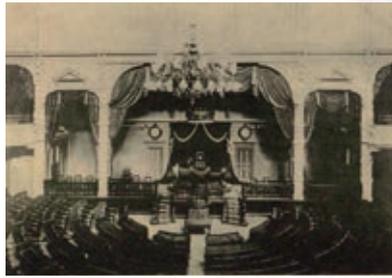
第一次仮議事堂

議事堂の本建築は中止となったものの、明治14(1881)年の国会開設の勅諭で明治23(1890)年を期して国会を開設することとされていたことから、仮議事堂が建築されることになりました。

初代の仮議事堂(ここでは東京に建てられた3つの仮議事堂をそれぞれ「第〇次仮議事堂」と呼びます)は、明治23年11月に完成しました。所在地は東京市麴町区内幸町2丁目(現:東京都千代田区霞が関1丁目)、現在は経済産業省の敷地になっている場所です。設計を担当したのはドイツ人建築家アドルフ・シュテークミュラー(ステヒミュレル) (Adolph Stegmüller) と内務省臨時建築局技師の吉井茂則(しげのり)で、木造2階建ての建物でした。

完成直後の同年11月29日、大日本帝国憲法が施行されるとともに、第1回帝国議会が開会しました。「第一次仮議事堂」は正に「すべり込み」で完成したことになります。

しかし、完成からわずか2か月後



第一回假議事堂貴族院議場／第一回假議事堂全景

【大蔵省】営繕管財局編『帝国議会議事堂建築報告書』【本編】，営繕管財局，昭和13【758-145】



帝國議事堂炎上之圖

小林清親画「帝國議事堂炎上之圖」，井上吉次郎，明治24

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2542818>

の翌明治24(1891)年1月20日未明、突然の火災により第一回假議事堂は全焼してしまいました。出火原因は漏電であったと言われています。

第二次假議事堂

第一回假議事堂が火災により失われたことに伴い、新たな假議事堂を建設することになりました。

設計したのは第一回假議事堂設計にも参加した内務省技師(臨時建築局は明治23(1890)年3月に廃止)の吉井と、ドイツ人建築家オスカル・チーツェ(Oskar Tietze)です。「第二次假議事堂」が完成したのは明治24(1891)年10月、第一回假議事堂の火災から9か月後のことでした。第一回假議事堂に類似した外観を持つ、同じく木造2階建ての建物でした。第一回假議事堂との相違点として、中央の玄関に加えて貴族院・衆議院それぞれにも玄関が設けられたことが挙げられます。

それから30年以上にわたり、第二次假議事堂は帝国議会議事堂とし

ての役目を果たしました。大正12(1923)年に発生した関東大震災でも建物は倒壊や類焼といった最悪の事態は免れます。しかし、震災で受けた被害は少なからずあり、それを補修するための工事が進められていた大正14(1925)年9月、工事業者の火の不始末による火災が発生し、第二次假議事堂は第一回假議事堂と同じく焼失という最期を迎えてしまいました。

広島臨時假議事堂

この第二次假議事堂が使われていた期間中に、日本は日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦という3つの大きな戦争を経験します。日清戦争中の明治27(1894)年には、東京ではなく別の都市にある臨時假議事堂で第7回帝国議会が開催されました。それは当時大本営が置かれて明治天皇が滞在し、臨時首都の様相を呈した広島です。議会政治の歴史の中で、帝国議会や国会が東京以外の場所で開かれた唯一の例となってい



第二回假議事堂貴族院議場／第二回假議事堂全景

〔大蔵省〕営繕管財局編『帝国議会議事堂建築報告書』〔本編〕，営繕管財局，昭和13【758-145】



臨時議會全景（広島臨時仮議事堂）

『戦国写真画報』(3) 春陽堂，1894【雑53-1】

第三次仮議事堂

ます。所在地は陸軍西練兵場内（現：広島市中区基町）、木造平屋建て、設計したのは本議事堂の建設計画にもかかわらず建築家で、当時は内務省に所属していた妻木頼黄つまきよりなかです。その後、帝国議会は東京の第二次仮議事堂へと戻ります。広島臨時仮議事堂は予備病院や兵舎といった陸軍の施設に転用されたのち、明治31（1898）年に取り壊されました。

大正14（1925）年12月、わずか3か月弱の工期を経て、新たな仮議事堂が完成しました。第一次・第二次仮議事堂と同じく木造2階建ての建物でした。昭和11（1936）年に現在の本議事堂が完成するまでの10年あまりの間、この「第三次仮議事堂」が帝国議会議事堂としての役目を果たしました。



全景（第三次仮議事堂）

『帝国議会議事堂建築記念』，光明社，1925【YQ2-1621】

第2章 本議事堂の完成



一等 透視圖 渡邊福三氏案

洪洋社編『議院建築意匠設計競技図集』, 洪洋社, 大正9

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/967480/4> (モノクロ画像)

議事堂の設計

本議事堂の設計デザインは、建築設計競技として一般公募されました。競技は大正7(1918)年から翌年にかけて行われ、実施したのはこのとき大蔵省に設置された臨時議院建築局です。一等に選ばれたのは宮内省技手の渡邊福三の案でした。

議事堂の建設

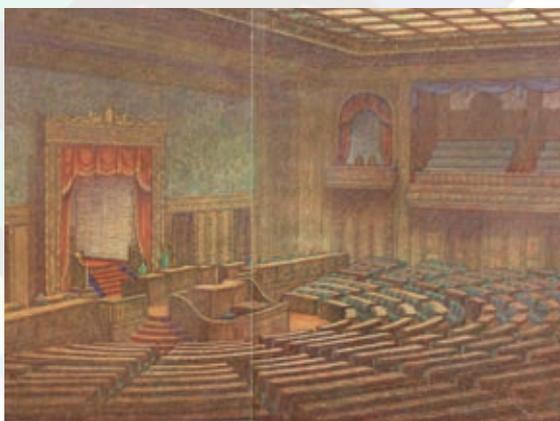
建築設計競技の開催と入選案の修正を経て、大正9(1920)年に本議事堂が着工します。この時は第二次仮議事堂が使われている時代でした。本議事堂が完成したのはなんと約17年後、昭和11(1936)年のことでした。工期がこれほどまでに長期化したのには、以下の理由が挙げられます。

建設中の大正12(1923)年に関東大震災が発生、幸い本議事堂の建物自体は無事だったものの、この震災が工事に大きな影響を与えました。地震後、火災により大蔵省が全焼し、ここにあった重要な設計図や模型なども失われてしまいました。さらに、建設に用いる鉄材を積んだ船が津波により沈没



鐵骨組立全景

[大蔵省] 営繕管財局編『帝国議会議事堂建築報告書〔本編〕』, 営繕管財局, 昭和13【758-145】



貴族院議場透視圖
[大蔵省] 営繕管財局編『帝国議会議事堂建築報告書【附図】』，
営繕管財局，昭13【758-145】



帝國議會議事堂鳥瞰圖
[大蔵省] 営繕管財局編『帝国議會議事堂建築報告書【附図】』，
営繕管財局，昭13【758-145】

議事堂の完成

昭和11(1936)年11月、着工から約17年の時を経て、ついに本議事堂が完成しました。当初、すべての建材を国産で賄うことを目指していましたが、ドアノブと郵便差入口、そして中央広間のステンドグラスのみ外国製のものが使われました。外壁が山口県の黒髪島や広島県の倉橋島産の花崗岩で覆われた、地上3階(中央部分4階)地下1階、鉄骨鉄筋コンクリート構造の建物です。

し、再発注を余儀なくされたことも、工期の遅れにつながりました。
建築を担ったのは大蔵省臨時議院建築局(のちに営繕管財局)で、技師長の矢橋賢吉の指導のもと、宮内省内匠寮(競技実施時は渡邊福三の部下)から大蔵省臨時建築局技師に抜擢された吉武東里や、この後も数々の官庁建築を手がけることになる大熊喜邦(よしくに)が参画しています。工事は、昭和2(1927)年の上棟式直後に矢橋が急逝してからは、大熊が営繕管財局工務部長として指導的存在になりました。

なお、本議事堂が完成した昭和11年の2月には二・二六事件が発生しています。事件の際には完成を目前に控えた本議事堂も占拠されました。しかし、幸いにも本議事堂の建物が被害を受けることはありませんでした。
本議事堂は完成以来80年あまり、その間帝国議会が国会へ、貴族院が参議院へと姿を変えましたが、その役目を果たし続けています。

「本の万華鏡」は国立国会図書館のさまざまな資料を、インターネットでご覧いただける展示会です。スマートフォンからの閲覧にも対応しています。お手元のスクリーンを通して、資料に残された議事堂の姿をぜひご覧ください。

<https://www.ndl.go.jp/kaleido/>

本の万華鏡

検索



議 会 開 設 百 三 十 年 記 念 議 会 政 治 展 示 会



貴族院の本会議場 明治 23 (1890) 年 11 月竣工
【東京都写真美術館所蔵】



西園寺公望書簡 桂太郎宛
明治 44 (1911) 年 2 月 7 日【桂太郎関係文書 47-30】

入場無料

日時：

令和 2 年

12 月 10 日 (木) ~ 23 日 (水)

※ 13 日 (日)、16 日 (水)、20 日 (日) を除く

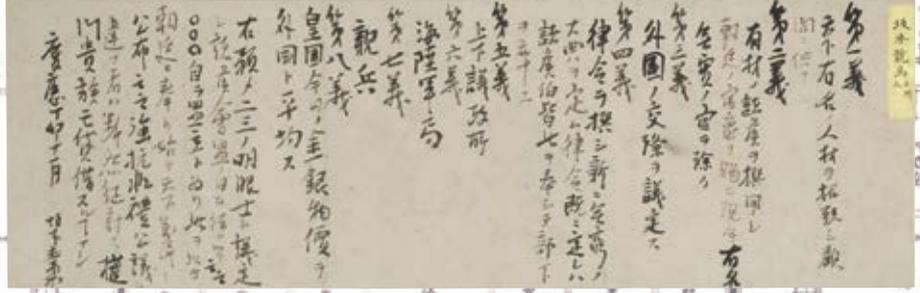
場所：

東京本館 新館 1F 展示室

※開催状況に変更がある場合は、国立国会図書館ホームページ、
公式 Twitter、Facebook 等でお知らせします。

※国立国会図書館東京本館の来館利用は抽選予約制ですが
(10 月 1 日現在)、展示室へは予約なしでご来場いただけます。

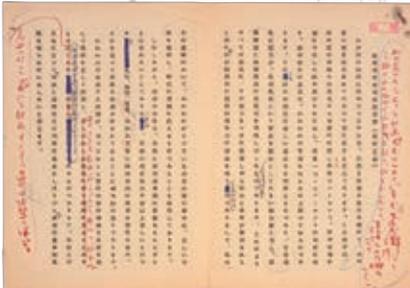
歴史をつくってきた 議会、議場



新政府綱領八策（坂本龍馬自筆）
慶応3（1867）年11月【石田英吉関係文書1-5】



「帝國議事堂炎上之圖」 小林清親画 井上吉次郎
明治24（1891）年2月【寄別7-2-2-2】



池田首相所信表明演說草案 経済の部
昭和36（1961）年【高橋亀吉関係文書（その1）2707】



衆議院議員之証 和歌山県陸奥宗光
明治23（1890）年7月12日
【陸奥宗光関係文書108-66】



我が国の議会政治は、制度や運営方法を変えながら連綿と続き、130年の歴史を刻んできました。

この展示会では、議会が歩んできた歴史を、近現代政治史における大きな出来事とともに、時代を追って9章に分けて紹介します。

展示資料は、国立国会図書館憲政資料室で所蔵する、政治家や軍人などが遺した書簡、日記、各種書類を主体として、その他の当館の蔵書（図書や雑誌、貴重な錦絵など）、当館以外の機関から出陳していただいた図面、写真、模型など、バラエティに富んだものです。これらを用いて、議会政治や議事堂の歴史を様々な形で表すことを試みました。

『国立国会図書館月報』では、今月号（11月号）と来月号（12月号）の2号にわたり、この展示会の一端をご紹介します。ぜひご来場ください。

このあわただしい世間をよそにすやすやと安眠しているその背中にそっと触れ、まぶしげな寝起き姿をつぶさに診断し、手術台ながら剥き出しのままガラスケースに並べ、その名前と出自を幾多のまなざしへ晒すこと——国立国会図書館の業務の一つである「展示」をこう説明できるかもしれません。いささか荒々しくも感じられる表現が似つかわしいのは、当館の蔵書の魅力をひろく人々に伝えるというのは、その目的とは裏腹に、後世に残す大切な資料はなるべく安全な書庫で保存しておきたい切実な事情も抱えているからです。

東京本館の新館入口から階段を下りたところにひっそりとたたずむ展示室を会場として、ほぼ毎年にごやかに開催される展示会では、毎回ユニークなテーマに沿って選ばれた100〜150点ほどの展示資料が来場者の目につります。本のほかにも錦絵や直筆、写真など、歴史や文化を豊かに伝える色とりどりの資料が集まったその舞台は、展示会場の設営や広報ポスターの製作などのかたわら、つねに資料の保存状態を気にかけて準備が進められません。無理な格好のために過度の負担をかけることがないように、展示物としての見栄えだけでなく資料が置かれる環境にも注意を払い、展示会の前には一つ

一つの寸法や状態を診断し、展示ケース内のレイアウト調整や代替の複製パネル作成など適切な展示方法を慎重に検討しています。

こうした手間暇にもかかわらず、それでも抗いがたく私たちが「展示」へと差し向けるのは、歴史と文化のあいだで資料それぞれが放つ秘かな輝きに魅せられた者だけが抱く、少しでも多くの人に見てもらいたいというささやかな使命感といえるものです。4400万に及ぶ国立国会図書館の蔵書の多くがまつ暗な閉架式書庫ですこやかな眠りについているなか、ともすればそのまま時間のとめどない堆積に埋もれてしまうところを世の光に当てなおす、その舞台裏の照明担当が「展示」という仕事であり、そこに意義と楽しさがあると感じています。

* * *

急いで最後に、今すべからく注目すべき展示会を一つ書きつけておきます。「議会開設百三十年記念議会政治展示会」——美しくも滔々と漢字が連なつたこのタイトルは、1890年の帝国議会の開設より連綿とつづく日本の議会政治をことほぎ開催される展示会です。詳細は本誌18ページをご覧ください。

(サービス企画課 展示企画係 迷亭)



すてきな資料に、
もっと「光」を

本屋に

ない

本

今日の美術館ではさまざまな形式の

展示が行われている。映像作品やインスタレーションなど、その多彩さには展示会場に足を踏み入れるたびに驚かされる。これらの作品は、展示後は一体どのように保存されるのだろうか。

2018年に東京藝術大学大学美術館で開催された展覧会「アート芸術の保存・修復——未来への遺産」の図録である本書は、現代芸術の舞台裏にスポットを当てた一冊である。本展覧会は素材や技法、表現形態が多様化した現代の新しい芸術作品の保存・修復をテーマとしている。本書では展示作品等の写真が掲載されると共に、作品の保存について多種多様な観点から論じられており、図録というよりも論考集と言っ

てよい。

展示の中心を占めるのは、東京藝術大学が所蔵する学生制作品である。巻末の出品リストを見ると展示作品の大半が2000年代以降に制作されており、それらの多くはCDやDVD、USBといったメディアに記録されている。本書では記録媒体を用いた学生制作品を収蔵する上での課題などが扱われている。こうした議論は図書館の世界にも共通する。DVDやインターネット情報といった「本でないもの」をどのように扱い、保存するのかが大きな課題となっている。

本展覧会での特徴的な展示として、シアノバクテリアの増殖によって変化する続ける作品や、鶏肉加工品のDNA

から雌雄鑑定を行ったプロジェクトの記録といった作品がある。「バイオメディア・アートの保存」の章では、こうした生物に由来する作品の保存手法について論じられている。

また「同一性の臨界——文化財と芸術の保存・修復」の章では、芸術作品のさまざまな保存手法を紹介しながら、作品の同一性の保存について論じている。たとえば現代の芸術に多く見受けられる、身体表現を用いた作品や展示場所によって変化する作品では、再制作を行ったとしても常に同じ作品が生まれることはない。こうした作品を保存する際に、何を同一性と捉えるのか。この問題について、本章では文化財の保存・修復が参考にされている。

無形文化財における「わざ」の伝承や伊勢神宮の遷宮など、再制作による保存は古くから行われてきた。過去から現在へと継承される文化財保存の手法を参照することで、新たな芸術作品を守り伝える上での同一性の維持について考察している。

私たちがよく知る絵画、音楽、物語。どれも過去の人々によって守り継がれなければ、現在出会うことはできなかった。各分野の技術を参照して作品の未来を模索する本書からは、作品を次の時代へ確実に届けようとする意思が感じられる。ページをめくるたび、本書もまた当館で永く保存される「未来への遺産」であることに思いを馳せずにはいられない。(山田春菜)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。



アート
芸術の保存・修復
Conservation for the art
未来への遺産 展覧会
東京藝術大学 2019.3 80p 19×19cm
<請求記号 K275-M52>

国立国会図書館で働いています

no.9

NDLが何かを達成する
ということじゃなくて、
利用者の方が何かを達成することが、
NDLの存在意義だと思う



標準化推進係の「標準」って何ですか？
何をやる係なんでしょうか。
まず、国立国会図書館（以下「NDL」）の複数のシステムで共通に用

いている「標準」、つまりルールの策定・維持・更新です。例えば、システムのユーザビリティやアクセシビリティに関するガイドライン、また、システムに登録されたコンテンツのメタデータについての共通ルールなどを所掌しています。

めでたーた……？

図書館やオンライン書店で本を探す時、本のタイトルや著者、テーマなどを入力して検索しませんが、そういったコンテンツの検索に使える情

報が「メタデータ」です。NDLでは、「国立国会図書館データベースメタデータ記述（DC・NDL）」というメタデータに関するルールを定めて、国立国会図書館デジタルコレクション（以下「デジタルコレ」）や国立国会図書館サーチ（以下「NDLサーチ」）など複数のシステムで使っています。共通のルールが使われていれば、利用者にとっても分かりやすく、また複数システム間のデータ共有が効率よく実現できるからです。

データを共有するのですか。

はい。デジタルコレとNDLサーチは、それぞれ別の機能を持ったシステムですが、NDL所蔵資料のメタデータなど、どちらのシステムでも必要なデータがあります。こういうものについては、データを共有することで、ウェブサービスを効率よく展開していくことができます。

なるほど。NDLサーチでは他機関のコンテンツも検索できますね。これも

もしかして……

そのとおり。データ共有の成果です。この場合は他機関のシステムと、ですね。NDLサーチやジャパンサーチといった複数機関のコンテンツを検索できるプラットフォームの構築では、多様な由来のメタデータを一つのサービスの中で統合的に扱えるようにしていますが、そのためにメタデータ標準は使われます。

ジャパンサーチは連携コストの低下

奥田 倫子 電子情報部 電子情報流通課 標準化推進係長

平成13(2001)年4月 図書部 図書閲覧課 図書第一係
平成14(2002)年4月 総務部 企画・協力課 協力係
平成16(2004)年10月 収集部 収集企画課 資料管理係
平成17(2005)年10月 収集部 外国資料課 外国購入係
平成20(2008)年4月 関西館 電子図書館課 研究企画係長
平成21(2009)年8月～平成23(2011)年8月 オランダ ライデン大学大学院留学
平成24(2012)年4月 関西館 電子図書館課 電子化資料提供係
平成25(2013)年4月 関西館 電子図書館課 研究企画係
平成27(2015)年4月 電子情報部 システム基盤課 システム基盤構築係
平成29(2017)年4月 電子情報部 電子情報流通課 標準化推進係長

聞き手：総務課編集係
令和2(2020)年8月11日インタビュー

れない。あるいは出版社自体が倒産

したり。そういったときに長期的なアクセスを保証するためのしくみが
必要で、当時、欧米でそれが出来つ
つあったんです。電子図書館事業と
いうのは、単に自館のシステムやコ
ンテンツを作ることだけでは
なくて、私たちの主として使う情報
が「電子情報になっていく中で、新し
い社会的なしくみを作っていくこと
なんだと気付いたときに、面白そう
だと思ったんです。」

今だったら、サブスクリプション
で音楽購入したけど聴けなくなっ
ちゃった、とか普通の人も体験する
話ですよ。そういうのが15年くら
い前、論文の世界ですであつた、
と。

「蓄積する」という図書館の機能を
ある意味否定した話ですよ。

その通りです！ そのあと電子図書
館課（「電図課」）に異動したのは希
望して？

たまたまでした。さらにたまたま「電
子情報の長期保存のための調査研
究」の担当になった。

神のお導きですね、きつと。

面白かったですね。当時、電図課で
構築していたデジタルアーカイブシ
ステムは、長期保存のための技術標
準であるO A I S S^⑧というモデルに準
拠することを目指していました。そ
れこそシステムの素養がなかったの
で仕様書そのものを書いたわけでは
なかったんですけど、取りまとめ
て細部の調整をしたり、会議に出席す
る中で勉強しました。

ライデン大学に留学されたのは
ひよつとして……

もともと外国資料課時代に希望して
いたんです。オランダの国立図書館
は、e-depot^⑦という、出版社との協
力関係の中で電子ジャーナルの公的
アーカイブを実現していて、そこに
まず魅かれました。ライデン大学の
大学院課程では、書物史とメディア
史と両方の視点でデジタル環境下の
図書館や出版社の機能変化や技術動
向について学ぶことができ、また王
立図書館で行われているプロジェクト
にも関わらせていただくことで、電図課に異
動してから留学の話をお願いした時
にもライデン大学を第一希望にしま

した。その時はすでにEuropean^⑨
の話が始まっていたので、なおさら
オランダしかないと思って。

留学前と後で意識は変わりました
か。

最終的に、日本関係資料をテーマに
して論文を書きました。そのため
約1年、山のような資料を見たんで
す。ライデン大学所蔵の19世紀に出
島の商館員によって集められた資料
と、それ以外の日本関係資料。現在
までに何度か移管されていて、大学
図書館以外に、ライデン市内の二つ
の博物館、フランス国立図書館、ユ
トレヒト大学図書館に行きました。
また蒐集にかかわる資料として、各
館の購入・受入記録や文書資料、オー
クシオン関係の販売目録をアムステ
ルダムにわざわざ見に行ったことも
あります。

その全部を、学芸員や司書の方の厚意
もあって、一介の大学院生だった私が
利用できたっていうことが、オランダ
の素晴らしいところなんですけど。と
同時に、私はそこに時間をかけて行か
なければならなかったんです。館ごと
に異なる規則で整理されている様々
な資料を、慣れないオランダ語で見な

くてはいけなかつ
た。資料を使う環
境を整えていくと
いう立場にある私
たちには、やるべ
き仕事がいっぱい
あるんだなってつ
くづく思いました。

デジタル化、著作
権処理、メタデー
タの整備……。

私が必要とした資
料はデジタル化さ
れていなかったし、未整理のものも
あった。日本にしてもオランダにし
ても、歴史資料のものをすごい蓄積が
あるから、一気にデジタル化できる
わけではないし、全てが使いやすい
形に一朝一夕になるわけじゃない。
現在、デジタルで扱えるものは私た
ちが受け継いでいるもののほんの一
握りに過ぎないんです。

◆ ◆
ところで、オランダ語はもともと
きたんですか？

まさか。しゃべれた方が楽しいだろ
うと思って勉強しました。もともと



ライデン大学図書館で日本関係資料のイベントを行った際の様子

(7) Portico (<https://www.portico.org/>) など。
(8) Reference Model for an Open Archival Information System
(9) 文化遺産のためのEUのデジタルプラットフォーム (<https://www.europeana.eu>)。

語学の勉強は好きなので。

企画・協力課でも語学をいかした業務を担当していましたね。だから難しいIT用語をわかりやすく翻訳するのも得意なのかもしれませんね。

それはあるかも。言い換えとか、言語ごとの文法構造の違いを知ることか、けっこう好きです。

それは標準化と似てますね。

そうかもしれない(笑)。いろんな構造が違うものを、違いを愛しつつみんなが使えるようにする。興味を持った言語についてはとりあえず文法書を読んじゃうんですよ。

いきなり!? ちなみに何か国語でできるんですか?

フランス語、スペイン語、オランダ語、ドイツ語、イタリア語、中国語、韓国語……、ひととおりかじったけど、使えるのは英語だけです(笑)。文法が分かるととりあえず満足しちゃう。語順の変わり方とか、数字や数詞の扱いとか、婉曲表現の作り方とか、知るだけで楽しい。

マニアックですね(笑)。そもそもNDLに就職しようと思ったきっかけはなんだったんでしょうか。

父が建築の仕事をしていて、就職先を考え始めた時期に、当時建設中だった国際子ども図書館や関西館の話を聞く機会があって。NDLというところ、国会サービスのイメージが強かったのですが、政治や法律を専攻してない自分には縁のない場所だと思っていたんですが、いろんなことをやっているんだとわかって、それが一つのきっかけです。

大学ではどんなことを学ばれていたんですか。

教育学です。ちょうど、総合的な学習の時間の導入時期で、主体的な学習を引き出す新しい形の授業などが取り組まれていました。でも学校の努力だけでできることには限界があります。それで社会教育施設にも関心を持ち始めました。

入館されて最初の配属は図書館閲覧課でしたね。

書庫出納をやった最後の世代なんですよ。

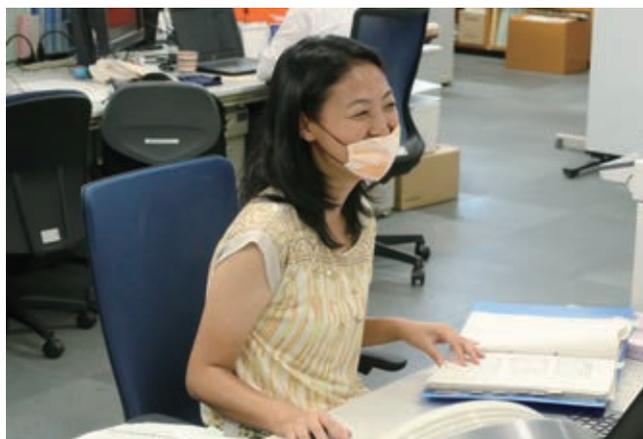
ああ! 関西館ができるのを機に、平成14(2002)年度から東京本館の図書の出納も業者委託になりました。

本館書庫にある本をほぼ全部見ることができたっていうのが、その後デジタル化されたものを見た時に「うちの子!」という愛着が変わっていきました。手に質感みたいなのが残っていて、画面で請求記号を見ても単に数字の並びじゃなくて、書庫のあたりにあったやつ、という物理的な感覚が重なるんですよ。関西館への移送前だから、帝国図書館時代の古いものから新しいものまで全部見たというその経験が、ありがたかったなあって。今でも自分の根っこにあるなって思います。

今後、NDLはどうあるべき、またどうなっていくらよいと思いますか。

NDLの資料だけを使って研究が完結する人ってそうそういないと思うんですよ。私たちは何か大きな全体を作っている中の一部に過ぎないという意識をいつも持っていて。NDLが何かを達成するということじゃ

なくて、利用者の方なり、もっと広く言えば国民なりが、何かを達成するというのが、NDLの存在意義だと思っているので、輪郭が必ずしも定まってはいる「全体」に対するアテンションを高く張って、私たちがほかのところとつながることで誰が何を實現できるのか。そういう形で考えていけたらいいと思います。



表紙画家セレクション

本誌は平成 20 (2008) 年 4 月号に A4 フルカラーにリニューアルして以来、表紙には、当館所蔵資料の中から、季節に合わせた美しい絵を選んできました。選ばれた絵たちは、浮世絵、作家のこだわりが詰まった版画集、美しい口絵で人気を集めた雑誌など、所蔵資料の多様性を表しています。今回、表紙に登場した画家を取り上げ、その中から、「国立国会図書館デジタルコレクション」でご覧いただける絵を集めてみました。

No.1

歌川広重 (一世)



(1797-1858)

江戸後期の浮世絵師。江戸定火消同心の家に生まれる。歌川豊広に師事。風景画にすぐれ、代表作の「東海道五拾三次」をはじめ、「木曾海道六拾九次」「江戸名所百景」など、諸国風景や江戸名所を多数描いた。

肖像：『肖像』2之巻 野村文紹著 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2551760/41>



11年
3月号

「江戸近郊八景之内 飛鳥山暮雪」部分
歌川広重 (1世) 画 [天保 9 (1838) 頃]
1枚 25×37cm (『江戸近郊八景』所収)
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1309717>

09年
12月号



「名所江戸百景 隅田川水神の森真崎」
歌川広重 (1世) 画 魚屋栄吉 安政 3 (1856) 1枚 34.0×22.4cm (『江戸名所百景』所収)
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1312271>

16年
8/9月号

「新撰江戸名所 両国納涼花火之圖」
一立斎広重 (歌川広重 (1世)) 画 [江戸後期] 錦絵 1枚 24.2×35.8cm
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1307357>



No.2

川瀬巴水



13年
5月号

『川瀬巴水版画集』から「亀戸の藤」
川瀬巴水画 渡辺版画店 昭和10(1935) 2冊 33×46cm
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586550/24>



(1883-1957)
大正・昭和時代の版画家。東京出身。青柳墨川、荒木寛友に日本画を、さらに白馬会葵橋洋画研究所で洋画を学んだのち、鏑木清方に師事。「旅みやげ」「日本風景選集」など、大正・昭和を通じて風景版画を制作した。
写真提供：渡邊木版美術画舗

18年
9/10月号

17年
9/10月号



「石積む舟（房州）」
川瀬巴水画 [渡辺版画店] 大正9(1920) 1枚 39×27cm (『旅みやげ 第1集』所収)
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2592072/1>



「奈良春日神社」
川瀬巴水画 [渡辺版画店] 大正10(1921) 1枚 39×27cm (『旅みやげ 第2集』所収)
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2592076/4>

国立国会図書館

月報

No.3

恩地孝四郎



(1891-1955)

大正・昭和時代の版画家。東京生まれ。東京美術学校中退。竹久夢二に私淑、ドイツ表現派、ムンク、カンディンスキーの影響を受けた。詩と版画の同人誌「月映(つくはえ)」を創刊し、木版画による抽象作品の分野を開拓。また、装丁の分野でも広く活躍した。著書に『日本の現代版画』など。

自画像：『工房雑記 美術随筆』恩地孝四郎 著 興風館 昭和17 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1068785/170>



16年
4月号

『季節標』から版画「蟲」

恩地孝四郎 画 アオイ書房 昭和10 (1935) 37cm
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8311658/27>



20年
4月号

「花」(木版手摺)

恩地孝四郎 画 『書窓』3巻1号 日本愛書会書窓発行所 1936.5 21cm
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1774367/6>
(国立国会図書館/図書館送信参加館内公開)



17年
4月号

「ヒヤシンス」

恩地孝四郎 画 『婦人グラフ』第4巻第4号 国際情報社 昭和2 (1927) 年4月
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2799517/1> (国立国会図書館/図書館送信参加館内公開)

No.4

小林清親



(1847-1915)

明治・大正時代の版画家。江戸本所御蔵屋敷にて幕臣の子として生まれる。河鍋曉斎、柴田是真に日本画を、下岡蓮杖に写真術、ワーグマンに洋画を学んだといわれる。木版浮世絵に洋画風の構図と光線を取り入れた新手法を創案、自ら「光線画」と称した。「東京新大橋雨中図」「東京銀座街日報社」など。

肖像：『清親 開化期の絵師』吉田漱 著 緑園書房 1964

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1697942/11> (国立国会図書館 / 図書館送信参加館内公開)

15年
8/9月号



「上野公園内之景」
小林清親 画 福田熊治良 明治 11 (1878) 1枚 23.3×35.6cm (『清親畫帖』所収) <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2605147/32>

19年
11月号



「常盤橋内紙幣寮之圖」
小林清親 画 福田熊治良 明治 13 (1880) 1枚 23.2×34.6cm (『清親畫帖』所収) <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2543380/42>



12年
8月号

「[兩國花火之圖]」
小林清親 画 [明治 13 (1880) 頃] 1枚 19.8×31.5cm (『清親畫帖』所収) <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2543380/34>

国会図書館



表紙に登場した画家はまだまです。
続編をお楽しみに！

NDL Topics

新刊案内

外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第285号

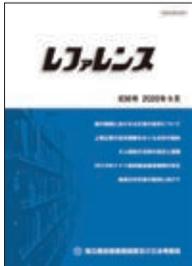
EUのワーク・ライフ・バランス指令
ドイツ民法典における家族法―親子関係の変化を中心に―
ドイツにおける法的性別変更―トランスセクシュアル法の
現状―
イタリアの2019年憲法改正法律―国会議員の定数削減
とその評価・影響―



A4 101頁 季刊 1,800円(税別)
発売 日本図書館協会
ISBN 978-4-87582-868-6

レファレンス 836号

国の機関における公文書の保存について
上場企業の役員報酬をめぐる近年の動向―企業業績との連
動性の強化―
ダム機能の活用の現状と課題
2019年ドイツ連邦議会議事規則の改正―首相のクエス
チョンタイムの導入等―
地域公共交通の維持に向けて―現状及び近年の施策―



A4 118頁 月刊 1,000円(税別)
発売 日本図書館協会

入手のお問合せ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812



#20 来館サービス再開直前の東京本館
(2020年6月10日撮影)

※上から科学技術・経済情報室、図書カウンター、本館入口

11

NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2020.11

NO.715
NOVEMBER
2020

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections (special edition)>
Wishing to overcome infectious diseases
- 04 Materials newly available in the Modern Japanese Political History Materials Room
- 12 Kaleidoscope of Books (28)
History of the National Diet Building
- 18 Exhibition on Parliamentary Government Commemorating the 130th Anniversary of
the Establishment of the Diet
- 22 Working at the NDL, Episode 9
- 26 Artists whose works have graced the cover of the NDL Monthly Bulletin
- 20 <Tidbits of information on NDL>
Shedding more light on fascinating materials
- 21 <Books not commercially available>
Ato no hozon · shufuku
- 30 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和2年11月号 (No.715)

令和2年11月1日発行

発行所 国立国会図書館
編集者 三浦良文
責任者

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
F A X 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<http://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2020.11

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

士